

## 「北極圏旅行記 2017 夏 (9)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

～7/28 ノルウェーへの旅路～

アルビズヤウルをあとにすると、もうスカンジナビア山脈にあるノルウェー国境まで、大きな街は一つもない。大きな街といえば、ノルウェーの港町「ボーデ」まで行かなくてはならない。



スウェーデンの道を走っていて、はじめて「ボーデ」の標識を目にした。距離は書いてないが、350km ぐらいある。ボーデはノルウェー語表記では BODØ だが、スウェーデン語表記では BODÖ となる。

ÖSTERSUND(エステスンドウ)は、インランズバーナン(内陸鉄道)の乗り換え駅がある、大きな町であるが、まだ行ったことがない。



日本から持ってきたナビは、役に立っている。しかし、次の交差点(右折)が 229km も先と表示されて笑ってしまった。実際に 229km の間、直進だった。

信号に至っては、ボーデの街、350km 先まで一か所もなかった。



さっそくトナカイに遭遇。親子で歩く姿が多い。かわいいのだが、ぜんぜんよけてくれないので、ゆっくりついてゆくしかない。追い越そうとすると、一緒に「車線変更」するので、危険なのだ。



道端に「名もない」美しい湖があったので、「ここでピクニック(昼食)をとることにした。



小さな町や村はたくさん通過する。どの町にも、必ず教会があり、どれも美しく絵になる。



これは、「ここから北極圏」という標識。いろいろな言語で「北極圏」と書かれている。日本語表記のもの見たことがあるが、ここにはなかった。北極圏は地理学上（というよりは天文学上）の境界線で、ここより北では、必ず年に1日以上完全に白夜になる。



緯度も標高も高くなってきたので、荒涼とした景観に変わってきた。国道は、雪が残るスカンジナビア山脈の峠に向かって進んでゆく。



国境近くに駐車場があったので、少し休憩することにした。こういう樹木がないアルペン的な景観は、日本では相当な高山でしか見られず、車で行けるところはほとんどない。しかしこのあたりでは、緯度が高い分、森林限界は低いので、ほんの少し標高が上がるだけで、すぐに森林限界になってしまう。

不思議なことに、最初に姿を消すのは針葉樹で、シラカバやダケカンバだけが残る。更に標高が上がると、シラカバの仲間が矮性化し、灌木のように非常に背丈が低い状態のものばかりになる。ついにその樹木も姿を消し、植生は草本やコケのみになる。



駐車場は、どうやらトレッキングコースの出発点のようだ。私は靴も装備も持ってないので、その辺（駐車場らへん）を少しだけ歩いてみることにした。スカンジナビア山脈を源頭とする美しい流れがあり、相当な山奥に来たような気分になった。



駐車場からしばらく進むと、スウェーデンとノルウェーの国境にさしかかる。「Norge」（ノリエ）の標識のあたりが国境だ。今回の旅行で2回目の陸路での国境越えとなった。いよいよボーデの街も近い。